

## Maple lettre (16)

### バカンス気分

夏だか梅雨だかはっきりしない不安定な気候の日々ですが、モンリオールの街はすっかりバカンス気分。タクトップに短パン姿の観光客で溢れています。この姿でアイスクリームを舐めていれば確実にアメリカ人の観光客です。

オールドモンリオールの港には豪華客船が時折やってくるようになりました。船を降りるとそこは、古いヨーロッパの街角です。少し離れた所に、マリナーがあり、モーターボートやヨットが絶えず停泊しています。特に、ジャックカルチエ橋の向こうに上がる花火大会の時は、自分の船の中で花火をみよう満杯になります。こんな風景を背景に夏の日々を送る我が家です。

忙しかったいけばな活動は、いけばなインターナショナルの年間プログラムを総会を持って終了し、運営委員会も持ち寄りランチョンでうちあげをし、一段落しました。もう一年いけばなインターナショナルのプレジデントを続けることになり、7月からは新期の運営委員会(と言ってもほぼ変わらないおばさんメンバーなのですが)で企画の建て直しをすることになります。日本の文化のソフトパワーは素晴らしく、いけばなで国籍まちまちの人たちがこうして集まり、楽しく(苦しい時もありますが)活動を続けています。いけばなを通して、友情や芸や国際性などが培われ、自分を作り上げていきます。日々努力と前進の伝統芸の精神性のおかげかもしれません。それを求める人たちを10年、20年と引き止める魅力が日本文化のソフトパワーに深く存在すると長年感じています。

こうした傍ら、ブータンに学会でで行くから預かってと言われたレンタル猫の世話にも追われています。何がブータンだ。ブータンはほんの2~3日で、その後、妻子とパリで合流し、リモージュやブルターニュでバカンスを過ごしているようです。一ヶ月以上猫を預かることになってしまいました。とんだ貧乏クジをひいたものです。レンタル猫はやや粗野にできていて、自然派なのですが、時々やってくる雀の訪問の観察で忙しくしています。出窓のてすりに残ったパンをおいていたら、雀が定期的にくるようになりました。

一羽だった雀が2羽3羽となり、

「雀の命は2年。冬に備えてプロテインが必要だから、バターを塗っておいたほうがいいかも」と、ドリトル先生の一言。

バターつきパンとなって以来、訪問雀は、餌のゲットは我が家へと決めているらしく、おいてないとチュンチュンと鳴きながら(こちらは雀までけたたましく、むしろキュンキュンと鳴く)と羽をばたつかせて催促をする始末です。パンは、ブランド物の、雑穀入りボンマタン(良い朝)が好みらしく、住み家と決めている向かいのテラスから、駿足で到来です。しかも、朝晩。

と、いうわけで、雀の餌、猫の餌、おっと、ドリトル先生の餌の世話で1日の大半が過ぎていきます。

来週は、いよいよドリトル先生の旭日小綬章の授与式とデイナーが日本総領事館および公邸で行われることになっています。ドリトル先生には心に刻むものの多い日々になりそうです。